

2024年度事業・活動報告

1. 衣類、毛布、バッグなどの回収とP&Jカンパニー（以下PJ C）への送り出し

2024 年度計画 130 トン：実績 129.9 トン（計画対比 99.9% 前年度対比 113.9%）

	回収期間	回収量	参加人数
1 回目	2023 年 10 月～12 月	50,105 kg	5,895 人
2 回目	2024 年 1 月～ 5 月	34,652 kg	4,924 人
3 回目	2024 年 6 月～ 9 月	45,173 kg	5,828 人
	合計	129,929 kg	16,647 人

2024 年度の回収は計画を 130 トンとしました。回収受付期間は年に 3 回設けました。参加人数は延べ 16,647 人で、前年より延べ 1,793 人増えました。合計回収量は 129.9 トンで、昨年度より 15.8 トン増えて、計画比 99.9%となりました。回収協力団体の皆様には積極的に広報や拠点での回収、配達便での回収、回収イベント企画などにもご協力いただきました。

た。回収量の 70%は協力団体の所属メンバーの方からの回収でした。J F S A の会員・支援メンバーの方からの回収は 8.7 トンで、回収量の 6.7%（延べ 1,208 人）となりました。ご協力ありがとうございました。

＊協力団体の方々やその他の回収は「6. 多様な団体との連携」、資料「2024 年度団体別回収集計」をご覧ください。

① 地域のコミュニティスペースやイベントなどでの回収企画

幕張ベイタウン、ベイパークで定期的に回収を行ないました（年間 10 回※うち 2 回は地域のまつりに参加）。「ぼっぼの市」（千葉市稲岸公園）では 4 月と 11 月に回収を行ないました。多世代交流拠点「おおなみなみ」（千葉市花見川区）、宅幼老所「サンタのおうち」（千葉縣市川市）では周辺の地域の方呼び掛けて回収をしていただきました。新松戸チャリティフリーマーケットは以前から実行委員会に参加して、活動支援の協力をいただいてきました。これまで回収をしたことがありませんでしたが、今回初めて回収を行ないました。

② チラシやホームページ、SNSを活用した情報発信

回収に参加した方には次回の回収案内チラシを郵送しました。チラシは千葉ショップ、柏ショップの店頭にもおき、イベント回収や活動報告会では参加者に配布しました。ホームページ、フェイスブック、インスタグラムではイベント回収の企画やイベント当日の様子などを紹介しました。

③ 回収品目の拡大の可能性を、PJ Cと協力して検討

P J C と話し合い、タイのマーケットで需要の高い眼鏡、サングラスを、幕張ベイタウンで試験的に回収しました。

④ 回収協力団体に回収企画を提案

2024 年 2 月に協力団体にイベント回収企画を提案し実施していただきました。2024 年度も 18 回（回収量 14.9 トン、参加 1,432 人）開催していただき、イベント回収周辺地域で、過去 2 年以内に回収に参加した人に DM で案内を送り効果がありました。回収日の前や当日に活動報告会を開催していただいたり、回収当日には団体のメンバーの方に受付を手伝っていただいたりしたことで、「古着のゆくえ」をお伝えしながら回収することができ、回収量も参加者も増えました。

⑤ 社会貢献を目指す企業や団体、近隣の学校と連携した回収取り組み

企業では、千葉県内の事業者 3 社から継続して回収にご協力いただきました。千葉市内の小学校、高校とその周辺の中学校から、継続して回収にご協力いただきました。

2. PJ Cとの連帯事業活動の推進とアル・カイルアカデミーの運営支援

1) PJ Cへのコンテナ輸出

2024 年度 J F S A 古着送り出し

	コンテナ積み込み	倉庫着	送り出し量
第 88 回パキスタン	2024 年 11 月 21 日	2025 年 2 月 2 日	23,000 kg
第 89 回タイ	2025 年 1 月 23 日	2025 年 2 月 26 日	17,184 kg
第 90 回パキスタン	2025 年 2 月 27 日	2025 年 4 月 26 日	22,594 kg
第 91 回タイ	2025 年 5 月 15 日	2025 年 6 月 20 日	15,738kg
第 92 回パキスタン	2025 年 5 月 29 日	2025 年 8 月 25 日	23,803kg
第 93 回パキスタン	2025 年 9 月 25 日	2025 年 11 月予定	23,719kg
合計			126,038 kg

今年度はパキスタンに 4 回、タイに 2 回コンテナを輸出し、計画の計 6 回の送り出しを行なうことができました。輸出量は前年度（計 5 回）より 16,784kg 増え、合計 126,038kg でした。コンテナ販売の利益による、PJ C からアル・カイルアカデミーへの運営支援金は 734 万 1639 ルピー（PJ C の会計年度 2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日まで。1 ルピー≒0.53 円 2025 年 10 月現在）になりました。

輸出するアイテムは、PJ C と販売状況を確認し、輸出先を需要に合わせてパキスタンとタイに振り分けました。パキスタン向けのコンテナは、主に男女冬物（ジャケット、セーター類）、女性衣類（半袖・長袖）、毛布等寝具類、

タオル・下着類等で、P J Cから卸業者ニアーズ氏にコンテナごと販売されました。タイ向けのコンテナは、主に男性衣類（半袖・長袖）、バッグ、靴、ぬいぐるみ等で、古着卸業者W A Sのアリ・シャー氏の協力のもと、アイテムごとに卸売り販売をしました。昨年度は女性衣類をタイに輸出しましたが、現地のマーケットでは女性衣類は供給過多の状態のため販売が思わしくなく、輸出先をパキスタンに変更しました。

J F S Aが海外から輸入した古着で必要な在庫量を上回るアイテムは需要に合わせて輸出しました。
コンテナの売上増加を目指し、タイでは新たな回収品目として「眼鏡・サングラス」の中古品の現地調査を行ない、2025 年 8 月～試験回収を始めました。また、女性衣類の人気の高いブランドについて調査し、それをもとにブランド品を集めたベールのカテゴリーを作りました。

グリーンコープ・ファイバーリサイクル事業部古着送り出し

	コンテナ積み込み	倉庫着	送り出し量
第 34 回タイ	2024 年 10 月 18 日	2024 年 11 月	22, 228 kg
第 35 回パキスタン	2025 年 4 月 18 日	2025 年 6 月	22, 410 kg

2 ）JFSA の輸入販売事業

S N Sでチャットグループを作り、柏店、千葉店の販売担当者と P J Cの仕分け担当者と日常的に情報交換を行ない、それぞれの状況を共有することに努めました。2025 年 2 月と 9 月にパキスタンを訪問した際に詳細な情報共有を行なったことや、P J Cメンバーを招いた際の東京などでの市場調査を行ない、仕分けの質を向上させるよう取り組みました。それらの古着をコンテナで 2025 年 4 月に 9, 140kg、9 月に 9, 340 kgと、空輸で複数回に分けて合計 4, 330 kgを輸入しました。その結果、前年比で柏店 124. 1%、千葉店 109. 9%の売り上げとなりました。

輸入量	輸入経費	柏店売上	千葉店売上	売上合計
22, 810 kg	¥45, 767, 370	¥73, 704, 836	¥13, 373, 968	¥87, 078, 804

3. 国内事業の推進

1 ）センター業務

1. 千葉センター

選別・プレス作業の年間工程表を作り、週ごとの作業目標を設定して、進捗管理を行ないました。欠員が出たため円滑には進行しませんでした。進捗状況に応じて人員を割り振り、輸出と国内販売の計画を達成することが出来ました。輸出先の需要について、パキスタン・タイ派遣を通して現地視察を行い、選別基準に反映させました。

選別協力団体が定期的に作業に参加しました。野菜の店頭販売や軒先市への出店、コンテナ積み込みへの協力がありました。

労働環境の改善については、全面的にカゴ車をベースにした移動に変更することで業務が効率化されました。また、パワーゲート付トラックの導入により労力・時間が削減されました。

2. 東葛センター

センター業務担当者の変更により、業務の内容の再確認をし、計画的に作業を行なってきました。主に輸入物の在庫整理、必要な備品の確認、倉庫内の整理と掃除をしてきました。劣化していたトイレの補修や、店舗改装なども行ないました。

在庫整理は進み、商品をカテゴリーごとにまとめたりシステム化も行いました。全員が把握できるように調整中です。

2 ）ショップ販売

1. 千葉店（古着ショップ CHARKHA BAZAAR チャルカバザール）

店内改装、ディスプレイの見直しやリニューアル、商品構成の見直しを行ないました。その結果、お客さんの滞在時間の増加、客単価の増加（前年度比 122%）、一点あたりの単価の増加（前年度比 138%）につながり、目標予算を達成することができました。（前年度比：国内回収品 106%、輸入古着 103%、カルハナ 201%）

輸入古着は、商品管理を行なっている東葛センターと連携して販売する体制づくりをすすめました。目標予算に対して 95%と予算を達成することができませんでしたが、前年度比は 103%となりました。売上全体に占める割合は、前年度から大きな変化はなく 18%でしたが、売り上げが伸びた下半期は全体の 22%となりました。国内古着については、選別・品出し量の見直しを行なったことにより、販売点数は前年度比 84%となり、輸出量を増やすことになりました。

広告宣伝については、輸入古着やカルハナ商品を購入する若年層～ミドル世代（10代～40代）には、Instagramを積極的に活用しアピールしました。中高年層には、公式LINEやフェイスブック、郵便はがきを利用した広報や、毎月の軒先市に合わせて割引クーポン券を配信しました。新規来店、再来店、常連化につながりました。

2. 柏店（古着ショップ kapre カプレ）

前年度に対して客数（購入者）は111%という結果で1割増加の目標を達成することが出来ました。売上も110.5%と達成出来ました。InstagramとTikTokを利用したSNSでの商品紹介、店舗紹介がお客さんにとってニーズがありました。

また在庫管理が進み、スムーズな商品補充が可能になりました。カゴ車に商品をカテゴリー分けしたことによって目視で商品の在庫がはっきりした為、販売と仕入れの方向性もはっきりしてきました。

今年度はまた新しいメンバーが加入して kapre の成長に繋がるような1年でした。接客を主とした売り場構成とそれに合わせた接客の新人研修を行い、今年度の売り上げに良い効果がありました。

イベント出店は店舗準備とともにイベント用の様々な準備が今の人員、体制だと難しいと判断しました。一度柏の葉 T-site に出店し、お店の宣伝は出来たと思います。新規の客の獲得にも少しは繋がったので良かったと思います。

3 ）街商販売（デポー・和衣マルシェ・その他の企画）

フリーマーケットやイベントについてはJFSAの活動を伝える場として参加を検討しましたが、事業の進め方を再確認し基本的に参加をしないこととしました。販売と広報を目的に協力団体生活クラブ虹の街のデポー各店に出店しました。着物販売企画として、毎月第1土曜日に和衣マルシェちば@まる空間を開催しました。着物の選別と販売はボランティアチーム「和(なごみ)」の協力を得て行ないました。回収品目に新たに着物用の反物(正絹、木綿、麻のみ)を加えることにより、毎月30本程度が寄せられ、販売に活かすことができました(売上の約30%)。また着物に合わせるアクセサリも人気でした(売上の約10%)。保管している在庫の整理を進めました。売上は計画を上回りました。

4 ）販売協力団体による販売（委託販売）

アースマーケットでは常設販売を行なうことで、購入する常連客が定着しています。店舗での回収量は129.9kgありました。おおなみなみは、2024年10月と2025年4月に回収と販売を合わせた企画を行ないました。回収量は254.9kgありました。あみあみは、毎月の軒先市、地域のイベントに出店の際に毛糸・生地類の販売を行ないました。

5 ）市民活動と連動した企画

①実行委員会参加企画

- ・ぽっぽの市：11月と4月、稲岸公園にて開催しました。JFSAの活動紹介、回収を行ないました。
- ・新松戸中央公園チャリティフリーマーケット：11月は予定が重なり参加できませんでしたが、4月の開催時には販売ではなく、初めて回収企画で出店しました。

②JFSA主催バザール企画：千葉センターは開催会場の公園の工事が未だ終了しないため開催しませんでした。東葛センターは11月、5月に開催しました。

4. 広報活動

1 ）会員の増減

会費の電信振込案内を目立つように記載し、利用する方は前年度の54人から88人に増えました。新規の入会者を増やすために、回収のお知らせ送付時や活動報告会での入会の呼びかけを行ないましたが、入会者が増えず、会員、支援メンバーともに昨年より大きく減少しました。

	会員数（うち新規入会数）	前年比	口数	前年比	計画口数
会員（個人）	157名（10名）	-9名	170口	-14	190口
支援メンバー（個人）	1,060名（84名）	-105名	1,225口	-108	1,350口
会員（団体）	10団体（0）	-0	10口	-0	11口
支援メンバー（団体）	5団体（0）	-2	5口	-2	7口

2 ）会報、サポーターグッズ

会報を3回（66～68号）発行し、会員、支援メンバー、協力団体などに送付しました。イベント回収や活動報告会、センターへの回収持込みの方にお渡しして、活動の紹介に活用しました。サポーターグッズは、2025年4月の事務局パキスタン派遣で撮影した写真を載せたカレンダーを作り、会報68号と一緒に会員・支援メンバーの方に送りました。

3 ）ホームページ、SNS

ホームページでは、イベント回収企画の案内を団体ごとに作り、情報が見やすくなるように努めました。SNSでは、イベント回収企画や活動報告会、コンテナ積み込みなどの様子を写真や動画で紹介しました。

4) 回収案内チラシ

回収の案内チラシは、回収に参加した方に、活動紹介、入会のお誘いとともに送付しました。イベント回収会場での配布、ダイレクトメールでの送付も行ないました。千葉ショップ、柏ショップの店頭に置きました。チラシ作成には新しい画像デザインソフトを使い、見やすい紙面づくりを工夫しました。編集の外注は行ないませんでした。

5) 活動報告会・交流会

2024年11月の定期総会の後にアル・カイルアカデミーとオンラインでつないで、報告と交流会を行ないました。2025年8月に招日したPJC代表のカユーム氏、スタッフのザヒッド氏、アサド氏といっしょに協力団体を訪問し、活動報告と交流の機会をいただきました。

協力団体主催の「JFSA活動報告会&パキスタンカレー昼食会」を11回開催していただきました。報告会は、特にメディアの情報から古着のゆくえに関心を持たれた参加者の方たちに、JFSAが回収した“古着のゆくえ”(リユースの流れ)をお伝えするよい機会になりました。PJCから輸入したラグなどの紹介と販売も行ない、PJCとの連帯事業について具体的に知っていただくことができました。

6) イベントの出展

ちばフェアトレードマーケット、ちばSDGsマルシェ、おさんぽマルシェに出展し、展示と回収の紹介を行ないました。

7) ボランティアの参加

ボランティアは、コンテナ送り出しの積み込み、会報や回収案内の発送作業に協力していただきました。イベント回収企画では、開催団体の方たちに協力していただきました。

和服の専門知識のある方たちのグループ「なごみ」に整理や販売に協力いただきました。

ファイバーリサイクルうらやすのメンバーが、定期的に一次選別に協力していただきました。

ちばし地域づくり大学校のOBの方2人から始まった一次選別ボランティアに、ボランティアを希望された方2人が加わって、毎月1回作業をしていただきました。

【2024年】

- 10月 都小学校2年生「まち探検」受入れ APF総会&ハンサリム生協写真展示(韓国・ソウル)
ファイバーリサイクルうらやす定期総会 淑徳大学活動紹介/講師 ちばフェアトレードマーケット
パルシステム茨城 栃木・栃木センター/活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会
生活クラブ埼玉「メゾン秋まつり」回収 生活クラブ虹の街「小金原団地オータムフェスタ」回収
- 11月 生活クラブ茨城水戸センター/活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会 桜木おさんぽマルシェ
パルシステム千葉「キューブ館山まつり」回収 千葉市地域づくり大学校ボランティア体験会(4回)
生活クラブ埼玉「つながる生き活きまつり」回収 多摩きた生活クラブ「使い捨てないマルシェ」回収
ぽっぽの市/回収 北東京生活クラブ「ものをたいせつに使うSDGsな展示会」回収
あうん「あらかわ再発見」 生活クラブ茨城水戸センター/活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会
- 12月 生活クラブ虹の街「虹色フェスタ」 生活クラブ茨城水戸センター/仕分け交流会
千葉日産贈呈式 千葉県ボランティア体験会

【2025年】

- 1月 生活クラブ虹の街新年会 幕張インターナショナルスクール6年生/見学体験
パルシステム千葉@バルひろば☆おたかの森/活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会
損保ジャパン千葉贈呈式 浦安日の出南小学校/活動報告
- 2月 ちばフェアトレードマーケット 北東京生活クラブ「生活クラブ×地域でつながる!葛飾センター祭り」回収
- 3月 パルシステム茨城 栃木・栃木センター/活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会
生活クラブ茨城水戸センター・取手センター/仕分け交流会
パルシステム茨城 栃木土浦センター「パキスタンの子どもたちの自立を支援」回収
- 4月 ぽっぽの市 新松戸チャリティフリーマーケット/回収
- 5月 ちばSDGsマルシェ 生活クラブ虹の街おたかの森デポー祭/回収・活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会
生活クラブ虹の街松戸ブロック展示会/回収・活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会
- 6月 NPOクラブ定期総会 アーシアン定期総会 常総生協/活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会
生活クラブ虹の街市原ブロック・柏ブロック展示会/回収・活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会

パルシステム茨城 栃木牛久センター「パキスタンの子どもたちの自立を支援」回収

生活クラブ茨城水戸センター/仕分け交流会 生活クラブ虹の街総代会 ワーカーズコレクティブ「結」総会

7月 多摩南生活クラブ/活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会

パルシステム千葉パルひろば☆ちば/活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会

生活クラブ埼玉「再エネ省エネフェア@メゾン志木」回収

8月 多摩南生活クラブ「わくわく電気まつり」回収 ちばフェアトレードマーケット/回収

生活クラブ埼玉「再エネ省エネフェア@北本であい館」回収 千葉日産贈呈式

P&Jカンパニー招日交流会（アーシアン、生活クラブ虹の街、生活クラブ東京、虹と風のファーム、

パルシステム千葉、パルシステム茨城 栃木、生活クラブ茨城）

9月 北東京生活クラブ大泉センター展示会/回収 23区南生活クラブ/活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会

5. 研修

ウルドゥー語について希望する事務局が勤務時間内に行ないました。担当ごとに業務に関わる事について必要に応じて研修を行ないましたが、全体としての研修は行ないませんでした。

6. 多様な団体との連携

1) 地球市民交流基金アーシアン

PJCメンバーが事務所を訪問しました。アーシアン柏ショップで、PJCメンバーの活動報告交流会を開催していただきました。

2) NPOクラブ

理事として参加しました。おおなみなみで古着の委託販売と回収を行ないました。ちばし地域づくり大学校企画に参加し、ボランティア体験を受け入れました。千葉県主催のボランティア体験会を受け入れました。

3) ファイバーリサイクル四街道、ファイバーリサイクルうらやす、ファイバーリサイクル佐倉

・ファイバーリサイクル四街道・・・活動収益金の一部を寄付していただきました。

・ファイバーリサイクルうらやす・・・活動収益金の一部を寄付していただきました。アル・カイルアカデミーのコンピュータークラスへの寄付をいただきました。千葉センターの一次選別ボランティアに定期的に来ていただきました。イベント出店に協力していただきました。着物販売企画の開催に協力しました。

・ファイバーリサイクル佐倉・・・活動収益金の一部を寄付していただきました。

4) 団体会員、団体支援メンバー

回収協力団体では回収の広報を定期的にしていただき、メンバーの方たちの回収参加、イベント回収の実施、活動報告会開催などに協力していただきました。

①大地を守る会（回収協力団体）・・・コンテナ積み込みに参加していただきました。回収お知らせチラシの会員の方への配布、広報紙での紹介、WEBでの広報に協力していただきました。ファウンダーの藤田氏が、理事、事務局のパキスタン派遣に同行されました。

②パルシステム千葉（回収協力団体）・・・広報紙での紹介、イベントでの回収、回収お知らせチラシの組合員の方への配布に協力していただきました。イベント回収企画、活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会、招日したPJCメンバーとの交流会を開催していただきました。組合員の方がコンテナ積み込みに参加していただきました。

③生活クラブ・東京（回収協力団体）・・・広報紙に記事を掲載して回収のお知らせと活動を紹介していただきました。招日したPJCメンバーとともに報告と交流の機会をいただきました。4つの地域生協で、それぞれイベント回収企画を実施していただきました。活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会、オンライン活動報告会を開催していただきました。

④生活クラブ虹の街（回収協力団体）・・・配達便による回収（年3回）、デポー（生活クラブの店舗）での回収（年4回）と販売、回収お知らせチラシの組合員の方への配布に協力していただきました。ぽっぽの市に出店していただきました。イベント回収企画、活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会を実施していただきました。招日したPJCメンバーとともに報告と交流の機会をいただきました。

⑤ポラン広場（回収協力団体）・・・回収の広報に協力していただきました。

⑥社会福祉法人風の村・・・「虹と風のファーム」の農産物を千葉ショップで受託販売し、「軒先市」にも毎回出店していただきました。招日したPJCメンバーが農場を見学させていただきました。

- ⑦生活クラブ茨城（回収協力団体）・・・配達便による回収・仕分け&交流会を行なっていただきました。ファイバーリサイクル活動協議会に参加しました。招日したP J Cメンバーとともに報告と交流の機会をいただきました。
- ⑧グリーンコープ・・・P J Cとともに、活動報告と交流会に参加しました。「ゆうあいショップ」スタッフにオンライン研修を行ないました。
- ⑨パルシステム茨城 栃木（回収協力団体）・・・回収の広報に協力していただきました。センターでの回収企画を実施していただきました（土浦、牛久）。活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会、招日したP J Cメンバーとの交流会を開催していただきました。
- ⑩生活クラブ埼玉（回収協力団体）・・・回収の広報に協力していただきました。イベント回収企画を実施していただきました。
- ⑪常総生協（回収協力団体）・・・配達便による回収を行なっていただきました。活動報告会&パキスタンカレー昼食交流会を実施していただきました。コンテナ積み込みに参加していただきました。

5）他のNPO/NGOとの交流

企業組合あうんが毎月の千葉センター軒先市に参加しました。また企業組合あうんが主催する「あらかわ再発見」に出店参加しました。

6）企業や団体、学校との協力関係

- ・千葉センター軒先市と東葛センターカプレバザール開催時に、周辺事業者から駐車場を借用しました。
- ・幕張インターナショナルスクール6年生による回収と選別体験会が実施されました。
- ・都小学校の「まち探検」の授業に協力しました。
- ・損保ジャパン千葉県、エー・シー・エス債権管理回収㈱、CNホールディングス（千葉日産自動車㈱、日産プリンス千葉販売㈱、㈱日産サティオ千葉）に、社員の方を対象にした回収に協力いただきました。
- ・環境街づくりNPOエコメッセに回収に協力いただきました。
- ・淑徳大学で講師に招かれました。学生がコンテナ積み込みボランティアに参加しました。学園祭に回収企画で参加しました。
- ・千葉経済大学で講師に招かれました。
- ・千葉県立千城台高校、加曽利中、更科中、千城台西中に回収に協力していただきました。
- ・㈱東基からまとまった量のリネン類を寄付していただきパキスタンに輸出しました。
- ・J F S Aの設立からずっとご支援、ご協力いただいたファイバーリサイクルネットワーク（本部横浜市）が解散され、寄付金をいただきました。

7）APF（一般社団法人互恵のためのアジア民衆基金）

APFに監事として参加しました。韓国で開催されたAPF総会にP J C代表のカユーム氏とともに参加し、P J Cの社員加入が承認されました。総会ホスト団体のハンサリム連合が主催する交流会に、カユーム氏と共に参加しました。またハンサリム生協施設では、アル・カイルアカデミーの子ども達の様子を紹介する写真展が同時開催されました。ハンサリム連合は継続して古着を回収して韓国内で販売、その売上をアル・カイルアカデミーの運営の支援費、ハンサリム連合の交流費に充てました。

8）社会福祉法人グリーンコープ・ファイバーリサイクル事業部との連携

招日交流の際、ファイバーリサイクルセンターを訪問し、実務の確認と交流をしました。また日常的に連絡を取り、P J Cへの輸出に関わる情報を共有し、輸出手続きに協力しました。

7. アル・カイルアカデミーの教育・連帯事業に関わるパキスタンの人々との交流

8～9月にP J C代表カユーム氏、P J Cメンバーのザヒッド氏とアサド氏を招日しました。2月と4月に事務局をパキスタンへ派遣しました。4月には増本監事、豊島理事、協力団体大地を守る会ファウンダー藤田氏が同行しました。

8. 危機管理の充実

- 1）国内事業 各センターにて危機管理の充実に努めました。
- 2）海外事業 リスクマネジメントマニュアルに沿って海外派遣を行ないました。

9. 働き方の改善への取り組み

就業規則の改訂のため、基本的に毎月、顧問社会保険労務士との相談を行ないました。またその際に労働に関する法律の改正への対応についても確認しました。